

アマダイ通信NO. 117

(Tile fish network letter) 2017年 ミモザの黄鮮やか

知人・友人各位

40光年先の恒星を巡る7個の惑星の表面に水があるというビッグニュース。水があれば、人間が住める。恒星の太陽の膨張で惑星の地球は吸収され、いずれ消滅する。灼熱の太陽に焼かれ、地球に人が住めなくなる前に、人類は地球を脱出、新天地に到達できるか？現代物理学では光より早く移動する手段を人間は獲得できないという。だが、人類が4足歩行から直立歩行にうつった時、人間が空を飛ぶようになると誰が考えただろう？ライト兄弟が空を飛んだ時、何人の人が、音速以上の速さで飛ぶ時代が来ると考えただろう？

◎ラスコウ展

暇を盗み、上野の科学博物館へ。50万年前に出現したハイデルベルク人、さらにネアンデルタール人の文明開化の歩みは、後世の我々から見ると遅々たるものだった。4万年前に出現したクロマニヨン人が、フランスはラスコウの洞窟で獣脂をランプに使い、獣骨に孔を穿ち、縫い針を創って獣皮を衣服に仕立て、石や獣骨で創った投槍器で猛獣を捕え、鉋物を砕いて顔料を創り、洞窟に絵を描くに至ったのは驚きだ。他の動物との戦いに明け暮れ、食料を得るのに四苦八苦、手一杯だった状況を脱し、絵を描く時間を持てるほどに、狩猟採集経済とは言え生産性が驚異的に上がったのだ。

ネアンデルタール人とクロマニヨン人は全くの別種で交わることはなかったと記憶していたが、交雑していたというのも驚き。50万年前に出現したハイデルベルク人は、4万年前に出現するクロマニヨン人が、ラスコウの洞窟でランプを使い、縫い針で獣皮を衣服に仕立て、寒さを防ぎ、石や獣骨の投槍器で猛獣を狩り、鉋物の顔料で絵を描くことを想像出来なかっただろうが、クロマニヨン人でさえ、エンジンのついた船や汽車で海や陸を自由に移動、飛行機で空を飛び、ロケットで宇宙に飛び出すことなど、全く想像出来なかった。ほんの数百年前の人間ですら、想像出来なかったことでさえある。

人類誕生以来の人間文明の幾何級数的な発展に鑑みれば、我々が千年先、万年先の人類の有り様を想像出来ると考えるのもおこがましい。学術的には地球が誕生して43億年ほど、同じくらいの年限で、地球は太陽に吸収され、その生命を終えるという。その遥か前に、太陽の熱線に焼かれ、人間が居住出来る環境ではなくなる。その前に人類は地球を脱出、新たな居住地を宇宙の何処かに見出し得るのか？遠い未来の子孫が、有史以来恩恵を受けて来た、その恩恵によって存在さえ可能となった太陽エネルギー。その灼熱のエネルギーによって焼き殺される前に、地球を脱出、新たな居住地を見出し得るのか？

人類の出現は2百万年以上前という。ハイデルベルク人からネアンデルタール人、さらにクロマニヨン人、狩猟採集から農耕へ、農業から工業へ、そして産業革命を経てのほんの数百年の文明の急速な発展を見れば、人類にとって最大のピンチを、その叡知によって解決し得るのではないか？4万年前のホモサピエンス、ようやく縫い針を手にし、始めて衣服を身につけた、人類の祖先の残したラスコウの壁画を前にして思う。初めて衣服をまとして4万年、人類はいつ、何をまとして、地球を脱出、新天地に到達するのか？

◎幼子の成長とAI

銀座のママとの同伴出勤もこんなに楽しいだろうかと、想像を逞しくしながら、銀座のママならぬ孫息子と毎朝保育園に同伴出勤。2歳の誕生日を目前にインフルエンザでダウン。久し振りに病児保育室へ。保育園は娘の住む湾岸の超高層マンションに併設、高層階から低層階へ上下動するだけだが、病児保育室は地下鉄の駅一つ分歩く。優しい孫が爺ちゃんの健康のために1駅分の散歩をプレゼントしてくれた！ポジティブ思考の🍄。

いつもと違って大通りに出、大きな交差点も横切り乳母車を押す。幼子にとっても、いつもと違って「社会勉強」になるようだ。まだ言葉をほとんど話せないが、バスなどの大きな車、変わった作業車などを見る度に指差して声を上げる。サイレンを鳴らして走って来る救急車には、急に甲高い声をあげ、興奮。経路を変え、最近できた3棟の新しい超高層マンション群の間を通ると、これにも指差して興奮する。外界の事象に脳皮質が刺激され、知識を蓄え、幼子も社会性を獲得して行くのか？自分のイメージを言葉としてまだ表現出来ないが、言葉は理解しているのか？いずれそれが、自身の言葉として幼子の口から発せられるように、🍄爺も幼子の歓声を上げる対象を言葉で語りかけ、教える。

あたかも人工知能がビッグデータを蓄え、学習していくように、いや幼児が外界から刺激を受けて学び、知識を蓄え、社会性を獲得、成長していく社会に貢献する。その過程をAI（人工知能）はどこまで学ぶことが出来るのか？人工知能はどこまで人間に近づくのか？人間の仕事を奪うのか？単純労働から人間を解放し、より多くの創造的な仕事の時間を人間に与えるのか？人類が誕生して以来歩んで来た歴史に鑑みれば、🍄はあくまでもポジティブに、後者に賭けたい。単純労働から解放され、専ら、圧倒的に知的、創造的な仕事に専念するようになった未来の人類は、現代人の常識を覆して、光速を超える移動手段を獲得、40光年先の水の惑星を、新しい居住空間としている筈だ！

◎大渋滞、リフトも渋滞

同行予定の顧問先の相棒のご母堂が倒れて、小1の孫娘と二人で奥利根の宝台樹へ。BS3チャンネルで7時半からのNHKの連ドラを見終え8時に晴海のマンションを四駆のワゴンで出るが、練馬から嵐山小川まで40キロ渋滞の報。急遽東北道を走る。こちらも事故渋滞。遠回りの北関東道はスーイスイも、高崎から先も渋滞。ようやく水上着が12時近く。手前の奥利根スキー場に入れない車で田舎の一本道も渋滞、宝台樹スキー場着は1時近く。

いつもの蕎麦屋で孫娘はタヌキうどん、沢庵ポリポリ。爺は沢庵と白菜、山菜漬、鴨セイロ蕎麦でビールと水芭蕉ワンカップ。まだボーゲンしかできない孫娘だが、初級だけじゃつまらないと、中級や上級のコースにも連れて行くと、2本のスキーの先端を狭め、後を開くボーゲンで、転びながらついて来る。沢筋の無圧雪のウルトラ上級コースは避け、難しいところは一応念押ししながら滑らせるが、負けず嫌いでチャレンジ精神もそこそこ。父親に背負われて降りる同じ年頃の娘もいる、馬の背のメインの上級者専用コース1キロ半も、最後の壁も含めて滑り通す。大学の期末試験も終わったからか？ゲレンデも人が多く、珍しくリフトも行列。4時半まで3時間、何時もの半分の8本しか滑れないが、孫娘と愉しく滑る。帰りも渋滞。娘のマンションに送り届けての帰宅は夜中の11時。

翌週は新幹線で手ぶらで越後湯沢へ。駅で友人と合流、彼の車で岩原の娘のマンションへ。置放しのスキーウェアとスキーでゲレンデへ。昼食はいつもの場内の「やましん」で、

もつ煮かけうどんに缶ビールと菊水のワンカップ。うどん好きの孫娘はざるうどん大盛。すっかり店に馴染み、常連客扱いでリラックス。店の周りで雪だるまを作ったり、お尻やスノボをソリがわりに滑ったり、遊んで貰う。その間に、一緒の時は滑れない山頂リフト直下の、未圧雪のこぶだらけの上級コースを真っ正面から2本、さらに5時まで二人で滑り、計14本ほど楽しむ。ようやく指定席が取れた7時過ぎの新幹線で辛うじてキオスクで確保した駅弁と一緒に食べ、送り届ける。翌日、めちゃくちゃ楽しかったって言ってたと、娘。喜んで貰えるなら、楽しい思い出を沢山つくってやろうと張り切る、古稀の🍄。

◎氷頭を求めて・・鮭党？ぶり党？

年を越すと無性に氷頭(ひず)を食べたくなる。秋田の田舎で年越しするのに塩引きの新巻鮭を一匹買うと、頭の口から下はざっくり切った大根と一緒に酒粕で煮付け、味噌で味付け、粕鍋にして食べ、上顎部の軟骨は酢漬けにして柔らかくし、薄切り、千切の大根、人参と一緒になますにして食べた。正月には欠かせない郷土の味、酒のつまみに最高。

同じく秋田の正月に欠かせないのが、年の瀬に嵐に乗って、産卵のために深海から磯に群来る鱒の飯鮓(頭と内臓、鱈を取ったハタハタをご飯と米麴、千切りの人参やキャベツと一緒に、笹の葉の上に重ね、重しをかけて少し発酵させた押鮓)、酒の友に最高！田舎から送って貰った兄夫婦手作りのわが家の味を食べ尽くすと、又食べたくなり、有楽町駅前の交通会館の秋田物産店に自転車を走らせる。ついでに途中の三越の地下で氷頭も探すが、売っていない。ないとなると無性に食べたくなる。無い物ねだりで、翌日通りすがりに東京駅大丸地下にも寄るが売っていない。新宿御苑の設計事務所で打合せの後、伊勢丹の地下に寄るが、ここにも氷頭はない。ここまで来れば小田急まで行くしかない。新宿御苑から数えると二駅分歩き、念願の氷頭をようやくゲット。

東西、南北に細長い日本列島だが、大井川と糸魚川を結ぶ構造線、ほぼ列島の真ん中で食文化も二分される。東は鮭文化で、西はぶり文化。ぶりは成長と共に名前を変えながら列島を回遊、秋田でも春先はイナダを釣り、夏はぶりが定置網にかかったが、西日本では鮭は獲れない。西日本の人間は氷頭には馴染みがない。氷頭派ですか？ぶり派ですか？

◎未だ、不動産屋になれず

建築や土木関係主体の営業コンサルタントの🍄。建設情報の大本は土地情報、より多くの方の役に立ちたいと、昨年今頃業界団体の一日講習を受け、30年以上前に取得した「宅地建物取引士」の3回目の資格登録。今回も業者登録の手続きが面倒で不動産屋を開業出来ていないが、「不動産屋宣言」をしたので、より多くの不動産情報が集まるようになる。業者登録をしなくても取敢えず困らないが、沢山の情報を集め、日頃お世話になっている建築主はじめ上流の皆様にも、違う形でもお役に立てるよう、登録手続きを進めたい。

◎マフィア的平和

スキーもゴルフもない週末は図書館で経済誌を読み、プールで泳ぐ。東洋経済やエコノミストなどに面白い記事が少ないと、中央公論や文春等の総合誌も読む。珍しく「世界」を手にする。麻薬に蝕まれ、マフィアの支配が進むメキシコのルポ、「マフィア的平和」が面白く、泳ぐ時間が少なくなる。30分弱、25m プールを平泳ぎとクロールで交互に泳ぎ、

700m。買物を兼ね、銀座三越まで片道 15 分チャリンコ。足腰を使う。

貧しく、学業を終えても仕事がなく、犯罪組織に「就職」せざるを得ないメキシコの若者。麻薬密売、誘拐、殺人が横行、行政を含めその地域をマフィアが支配するようになると、それなりの秩序が保たれ「平和」になるという。そんなメキシコをトランプが叩く。今以上にまともな働き口がなくなったら、メキシコはどうなる？メキシコの経済が混迷を深め、治安が更に悪化すれば、国境の壁を多少延長したところで、不法移民と麻薬、犯罪のアメリカへの流入を増やす形で、自身に跳ね返るだけだろう。

翻って日本。教育勅語を園児に読ませる、安倍晋三記念小学校の教育理念に賛同、総理夫人に名誉校長までさせた総理が、働き方改革や賃上げなど、本来社民党や共産党が熱心な領域にまでウィングを広げ、奇妙な政治的安定、「晋三的平和」が続く。

◎エジプトの春

年末、二度目のエジプトツアー。前回はカイロやアレキサンドリアなど、ナイルデルタ地帯とシナイ半島だけだった。今回はナイル河流域を見てみたい。短いツアーで無理だとわかっているけど、半世紀前、「東大全共闘」の一員として、起ち上げから「日本の春」の運動に関わり、「7回も臭い飯」（貧乏学生には結構美味しかった）を食い、足掛け3年未決で中野刑務所の独房に拘留された者としては「アラブの春」の片鱗にでもふれることが出来たらという淡い期待もあった。エジプト経験豊富な添乗員の吉田さんは結構変わったというが、🐟にはほとんど何も変わってないように思えた。

ガイドのハリルさんが、何でも質問してという。「エジプトのジャスミン革命で変わったもの、変わらないものは何ですか」と聞くが、彼は「政治の話をしてくれというのですか？（出来ません）」という。結果的にこの一言で、🐟なりに納得がいく。前回同様、バスには拳銃所持のツアー警察2名が同乗、自動小銃で武装した警官が四駆で続く。

旅に出る前はいつも中公新書の「物語〇〇国の歴史」や明石書店の「〇〇国を知るための60章」などのシリーズ、歴史や地誌、紀行文を何冊か読んで、簡単に予習してから出かけるが、今回は時間が取れず、往路の機内でようやく「エジプト革命・・・軍とムスリム同胞団、そして若者達」（鈴木恵美、中公新書）を読み終え、道中、同じ著者編集の「現代エジプトを知るための60章」（明石書店）を読み、読みかけの「ジャスミンの残り香・・・『アラブの春が変えたもの』」（田原牧、集英社）も携行、帰国後読み終える。著者は中日新聞の記者だが、「エジプト革命」に関心のある方には必読の一冊。

🐟の二度目のエジプト紀行（2016.12.23～30、

トラピクス「感動のエジプトナイル川クルーズ8日間」

半世紀前、自らが深く関わり、自身の人生航路を大きく変え、関わった多くの仲間のそれにも少なからぬ影響を与えた「日本の春」の総括も未だしきれないまま、5年ほど前、チェニジアでの、警官に暴行された青年による抗議の自殺に端を発した「アラブの春」が変えたもの、変えられなかったものは何か？一週間ほどのパックツアーで解りはしないと重々承知していても、その地に身をおいたら、片鱗だけでも感じ取れないか？大手旅行会社のエジプトツアーが再開されたのを機に、機上の人となった。

①先ずドーハへ

アラブの春以降のエジプト社会の混乱で、エジプトへの観光客が激減、日本からエジプトへの直行便も廃止された。12月23日午後10時20分成田発カタール航空。深夜便での海外は初めて。離着陸制限があり真夜中は使えず閑散としている成田から、12時間ほどのフライトでドーハに朝まだき4時半着。機内食もまずまず、空港も広くてきれい。石油以外に取り立てて産業がある訳でもない湾岸産油国。石油の上がりて新型航空機を競って購入、24時間稼働の大型空港をつくり欧米とアジア、アフリカを結ぶハブ空港化、航空産業の振興、石油に頼らない国づくりを競う。大分前、ケニアツアーでドバイのエミレーツ航空を利用、あの時も夜中の乗継ぎだったが、ドバイ空港の賑やかさ、華やかさにドーハは遥かに及ばない。5時間ほどの滞在だが見るほどのものもなく、おかげで「エジプト革命・軍とムスリム同胞団、そして若者たち」（鈴木恵美、中公新書）を読み終えた。カタール航空でドーハ9時発、11時45分カイロ着。同じ鈴木恵美編集の、世界の旅の安直で網羅的な道案内、明石書店のシリーズ、「現代エジプトを知るための60章」を読み進める。景観やファッション、食事、買い物などの上っ面な情報を断片的に伝えるだけのガイド本が多い中で、旅行先をトータルにレクチャー、旅を通じてその国と世界への認識を深め、豊かな旅にしてくれる、数少ない案内本、🐟の旅には欠かせない。

夜のフライトは通路側の席だったが、カイロへの昼のフライトは窓際、晴れて眼下の景色が楽しめて嬉しい。砂漠の黄と空の青、微妙に変化する海の碧のコントラストの妙が楽しい。3+4+3席と成田からの3+3+3席の機体より大きい、ほぼ満席。淡いベージュ色の乾いた大地の先にほどなく碧い海が見え、海には陸地から大きな腕が伸び、その腕が海を抱き寄せ港ができる。碧いキャンバスを引き裂いて延びる橋の先に摩天楼の群れ。広い大地に比べれば、ニキビほどの大きさもないが、数十本の摩天楼が紺青の空に向かって屹立。大地の片隅の摩天楼を空から見下ろす。大地を穿って海を呼び、緑の森をつくって、間に家を並べた高級住宅街も連なる。緑のフェアウェイとグリーンが砂漠の砂の海に浮かぶゴルフ場も見える。家と大地の色が同じベージュで砂と一体になった住宅街を過ぎると、灌漑された緑の畑とセットになり、砂漠と四角く区切られた農家が見える。しばらくすると緑の畑は丸くなる。円弧を描くスプリンクラーで灌漑するからだろう。

アラビア半島を西に入ると人間の気配は全く消える。この眼では見えないが、羊や駱駝を放牧しながら移動、天幕生活をするベトウインの世界か？半島も半ば近く、紅海が近くなると、ベージュと赤のアラブの素肌に丸い緑のホクロが再び現れる。銀色の筋で大地を四角く画するのはビニールハウスだろうか？川もなく、海からも遠い砂漠のど真ん中で灌漑農業を営むには、地下に水があるということだ。太古の海水が地下深く閉じ込められた「化石水」。アメリカ中西部の大穀倉地帯グレートプレーンズ（大平原）の穀物生産を支えるオガララ滞水層と同様、枯渇と塩害のリスクがある。更に紅海に近づくとゴツゴツした黒っぽい岩山も見えて来る。残念ながら突然機体は雲の上を飛び始め、大地は消える。

②盛者必衰の歴史

ようやく雲が途切れて紅海が見え、小さな港、化学工場のようなものも見え、一段と高い所に石油タンクの群れ。エジプトは産油国であることを確認。観光収入、海外出稼ぎからの送金に次ぐ外貨の稼ぎ手が石油・ガスの輸出、続く産業は農業という。因みに国土は

100万平方キロと日本の3倍弱だが、その殆どは無人の砂漠。5%ほどの土地に8千万人ほどの人々が住み、可住地の人口密度は高く、1日2ドル以下で暮らす貧困層が4割、識字率は6、7割という。この識字率では質のいい労働力が豊富とはいいい兼ねる。エジプトが中々途上国から抜け出せない、民主化が進まない原因の一端か？更に飛ぶと砂漠の中に巨大集合住宅群。カイロは近い。碁盤の目に区切られた農地が緑を増すと、高度を下げた飛行機の下には高層住宅群が続き、無事着陸。機内は暑く、ここはアフリカ！と身構えるが、エジプトの大地に吹く風は涼しい、今は冬。ドーハやカタールの空港に比べるとカイロ空港は狭く、ターミナルビルも小さく、古い。トイレも粗末。石油産出量と人口の多寡の差か？ここまで、蛇口から水栓が延びてお尻を左手で洗う、イスラム式ウォシュレットには出喰わさない。ドーハに比べるとカイロは段違いに大きな街だ。

初めてエジプトに来たのはいつだろう。カイロとアレキサンドリアのナイルデルタ、シナイ半島の旅を楽しんだのは大分昔の話だ。モーゼの十戒の舞台と言われるエジプト最高峰、標高2千数百mのシナイ山で、初日の出を拝むのが目玉のツアーだった。ジャスミン革命で大統領辞任後の独裁者ムバーラクが暮らしたリゾート地、シャルム・エル・シェイク。エールフランス機がその頃墜落した、透明度抜群の紅海で、群れ泳ぐ小魚の仲間となり、ゴツゴツした岩の山道をモーゼとなって夜を徹して登り、モーゼもかくやと凍える思いで御来光に感動。二度とこんなきつい山登りはするまいと戒めた。その時に訪れることのなかったアスワンハイダムとアブシンペル宮殿、何よりも、悠久のナイルの流れに身を任せたい！心ははやるが、先ずはエジプトの玄関口カイロ着。ホテルに寄る間もなく市内観光。高速道路を走り、ミナレットが聳えるモスクを横目に、広大な緑の庭園、市民の憩いの場、アズハル公園の中にある、遠くギザのピラミッドが霞んで見える池畔の素敵なレストランへ。マンゴージュースが美味しいというのが、発泡する、苦味のある琥珀色の液体にこだわり、ノンアルコールビールを頼む。屋根の天幕から、2度、3度と雨が降る。ずぶ濡れの仲間も。ほとんど雨が降らないカイロでこれはどうしたことか？灌漑用水から生活用水まで、全ての水はナイルに頼る、エジプトは「ナイルの賜物」、偉大なるナイルの恵みだが、それはエジプトの限界。エジプトのアキレス腱でもある。

食後、カイロ市街を一望出来る高台、モカッタムの丘に。アイユーブ朝の創始者サラーフ・アッディンが1176年に、十字軍からカイロを守るために建設した城塞シタデルの中に、オスマントルコからエジプトを独立させ、自らの名を冠して呼ばれる王朝を建てたムハンマド・アリが1857年にイスタンブールのブルーモスクを真似て建てた巨大モスク、モハメッド・アリモスクを下車して見学。モカッタムの丘からひどい渋滞の古い街を歩いてエジプト考古学博物館へ。窓やベランダから洗濯物がぶら下がる、崩れ落ちそうな5、6階建ての住宅が、狭い道沿いにびっしりと連なる。1階は店で、薬、雑貨、果物、肉、玉子、衣類、家具、自動車修理など、あらゆる種類の店が並び、あちらこちらの喫茶店では昼から男達が、所在なさに水煙草を吸う。いつか見たのと変わらない風景だ。

ナイルの畔にあるエジプト考古学博物館には、ツタンカーメンの黄金のマスクを初め古代エジプト文明の遺品や美術品が12万点もある。とても1日、2日で見切れる代物ではない。まして数時間では何をか云わんやであるが、とにかく駆け足で見る。ようやく書物に親しみ始めた小学2、3年生の頃、ナポレオンの伝記でそのエジプト遠征を知り、ロゼッタストーンの謎と、その謎を解いたフランスの考古学者シャンポリオンの物語に胸躍らせた。

この博物館にあるロゼッタストーンはレプリカで、発掘された遺物の多くは発掘者が持ち去り、大英博物館など海外にある。それでも建物は古く、手狭で、近くに日本の ODA で鉄筋コンクリート製の巨大な新博物館が建設中だ。圧倒的な遺物の存在に不感症に陥りそうだが、人間の歴史にこれ程の足跡を残した国民が、先人の文明の発掘と保存も、他国の力に頼らざるを得ないところに、盛者必衰の人の世の理を感じざるを得ないのは●だけだろうか？素敵なリゾートホテルのレストランで、少し軽目の地ビール、ステラとサッカーの酔いで眠りに落ち、長一い一日が終わる。(続く)

日本をめぐる領土問題と「境界史」・

東大三鷹クラブ第131回定例懇談会のご案内

昨年末、全国紙に「分裂から統一へ、シリーズ日本中世史(全4巻)、第4巻(税別840円)いよいよ完結!銀・鉄砲・キリスト教、倭寇に朝鮮侵略・・・世界史の大変動の中で『日本が踏み出した道』と岩波新書の広告。著者は三鷹寮で1年下、懐かしい村井章介さん(大阪北野高校、S42年入寮、文Ⅲ、文学部史学科卒)。東大名誉教授で、現在は立正大学の教授。このところ定例懇談会で歴史関係の講演はない。丁度NHKの大河ドラマも「真田丸」で、中世の最終章が舞台、いいタイミング。現在に通じるテーマで話して頂くことに。

山手線の大崎駅から近い、懐かしい立正大学のキャンパスへ。立正大学にはアンチ日本共産党の新左翼の中の中国派、●が活動した、マルクス・レーニン・毛沢東主義を掲げる社会主義学生同盟ML派の仲間がいて、時々キャンパスを訪れた。大学受験の際、秋田の北の外れ、日本海沿いの漁村の代々続く郵便局長の父親が、真偽は不明だが、立正大学には特待生制度があり、成績優秀者には学費免除で生活費も支給、卒業すれば郵政省に入れると、強く受験を勧めた。江戸時代からニシン漁の網元と地主を兼ね羽ぶりが良かった時期もある我が家だが、ニシンは乱獲で獲れなくなり、農地解放で田畑は手放し、「産めよ増やせよ」の国策に協力した惰性で、S21年生まれの4男の小生の下に5女が生まれる子沢山の家庭で生活が苦しかったのか?親が世情に疎かったのか?文I一本槍の4男は無視。

傾斜地を利用した高層ビルがコンパクトに並び、きれいに整備されたキャンパス。少子化の時代、生き残りのためにも小生の前職、高橋カーテンウォールのプレキャストコンクリート製外壁や、同じく顧問先の建研の、構造用プレキャストコンクリートを使う立派な校舎を造る大学も多い。おしゃれなキャンパスの高層階の研究室に、髪の毛こそ多少薄くなったが、半世紀前と同様、穏やかな表情の村井先生。S40年入寮生主体の宮原耕治(元日本郵船社長・会長、経団連副会長)委員会、辰紘(元東京三菱UFJ銀行)委員会までは共産党系も反日共系も一緒の委員会。全共闘運動の盛り上がりの中で党派闘争が激しくなり、41年入寮の小林正秀(弁護士)委員会以降、寮委員会は全共闘系だけで構成され、寮生の間に大きな亀裂が生じる。それが今に尾を引き、年に一回、6月の第一金曜日のS41年・42年入寮合同同期会には、60人以上の沢山の仲間が集まるが、母数の差の2対1どころか4対1と、我が同期は先輩に大きく水を開けられる。民青系諸君の参加がない。

時代は今や、民進党も共産党も、社民党も生活も一つになり選挙を戦う時代。ましてトランプがよもやのアメリカ大統領になり、日本の行く末も案じられる今、村井先生の穏やかな表情そのままに、かつての怨念を乗り越え、一堂に会したい。「大名どうしの争いが続く『分裂』の時代は、信長、秀吉、家康ら『天下人』の登場とともに『統一』へと転じた・・・

銀の増産、鉄砲伝来、そして朝鮮侵略という『日本史上のエポック』は、どれも世界史的な文脈においてこそ、その本質をとらえうる」と説く、村井先生の講演にとりわけ同時代を共に生きた多くの寮友の参加を期待したい。(S41 年入寮 干場革治)

日 時 : 平成 28 年 3 月 21 日 (火) 18 時 30 分~21 時

場 所 : 学士会館本館 302 号室 (千代田区神田錦町 3-28 TEL 03-3292-5931)

会 費 : 6000 円 (会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み)、別途二次会。

申込先 : 平賀・干場 FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182

(有) ティエフネットワーク Email : tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎「味は文化です」・・・新春編

懐石料理や寿司だけが和食ではない、多彩で奥深い日本の食文化の一端を味わって貰えればと、2月4日(土)赤門前のチャンコ浅瀬川で「味は文化です、新春編」。赤門向かいの薬局とカメラ屋の路地を入った右手奥に、「力士ちゃんこ」の店があることを、OBでも知っている方は少ない。将来、海外からの大切な客人を、母校の近くのお店で、ちゃんこ鍋と日本酒で歓待するのは如何?

因みに、浅瀬川は 53 連勝中の大横綱大鵬に土をつけ、金星を挙げた前頭筆頭の浅瀬川が始めた、由緒正しい相撲部屋のちゃんこ。留学生にも日本の食文化を味わって貰い、自治会の MSC 新メンバーとの顔合わせ・新年会も兼ねて OB も多数参加、盛会。

参加者は、赤間 建哉 (2015 (院)・法学政治学研究科総合法政専攻・宮城・仙台第一→国際教養大)、福永 晋朔 (2015・文Ⅱ・福岡・小倉)、横字 史年 (2015・文Ⅲ・愛知・岡崎)、KO HIU TUNG (2016・日本語日本文学国語学・香港・香港中文大学)、青山 絵里香 (2016・文Ⅲ・愛知・一宮)、片岡 丈人 (2016・文Ⅱ・青森・弘前)、神長 憲悟 (2016・文Ⅲ・茨城・水戸第一)、洪 運蘊 (2016・理Ⅰ・大阪・北野)、小林 義信 (2016・理Ⅱ・茨城・水戸第一)、橋本 豪 (2016・理Ⅱ・千葉・東邦大附属東邦)、八野 圭晃 (2016・理Ⅱ・兵庫・灘)、檜枝 悠太 (2016・理Ⅰ・兵庫・東大寺学園)、與古田 紗椰 (2016・文Ⅰ・沖縄・球陽)、鎌田 頼人 (理Ⅱ・北海道・北嶺)、河原崎 大宗 (理Ⅱ・福井・藤島)、OB が國枝 明弘【春風亭昇吉】(2003・文Ⅱ 経済・岡山・城東)、前田 和孝 (2003・文Ⅰ 法・京都・灘 (兵庫))、津田 量 (1999)、辰 紘 (1965・文Ⅰ 教養学部 教養学科 国際関係論・大阪・三国丘)、干場 革治 (1966・文Ⅰ・秋田・能代)、田倉 淳夫 (1967・文Ⅰ・京都・東舞鶴)、中村 英 (1967・文Ⅲ・広島・広島大学附属)、勝部 日出男 (1968・文Ⅰ・鳥取・米子東)

◎終わりに

40 歳までフリーターの●ほどではないが、未だ定職なしの「発展途上」の OB も鍋を囲む。「人生色々」、若い諸君は固定観念に捉われず、自分の可能性を追及、ネットワークも広げ、より多くの他人(ヒト)の役に立てるようになりたい。人間は一人では生きていけない社会的動物。類的存在として、他人のために役に立つこと自体が悦びともなる。

「金!金!金!だ」という留学生もいたが、お金は他人様から頂くもの。他人のために役に立って、他人に評価して頂いて初めて、頂ける。より広く、深く、他人のために役に立てるように知識・スキルを磨き、一人で出来ることの何倍、何十倍も波及効果を働かせ、より多く他人のために役に立てるように、ネットワークも広げたい。(再見!)